

議事概要

令和2年度・第3回豊川市の未来を拓く教育推進懇談会

日 時：令和2年11月17日（火）午前9時00分～午前10時45分

場 所：豊川市音羽庁舎研修室（4階）

出席者：会長 伊藤貴啓

副会長 阿部聖

委員 恩田やす恵、渡邊明、伊藤政絵、波多野慎次

1 議題

（1）報告書（案）について

これまでの懇談会で議論し、調査・検討を重ねてきた内容を踏まえた【小規模校の課題解決に向けた取組の検討報告書（案）】（資料11）について議論した。

「委員」

○目次で、「4小中一貫教育（7）本市における小中一貫教育の導入について」という考察があるが、「3学校選択制」については、「導入について」のような方向性を示す項目がないが、必要か。11ページの表に「市町教育委員会」とあるが、「村」は敢えて外しているのか。13ページから15ページにかけて、「図」が掲載されているが、それぞれ、いつの調査時点のものなのか記載した方が良い。

⇒（事務局）目次で記載はないように見えるが、8ページに「3本市における特認校制の効果的な導入のポイント」として考え方を示している。11ページの表中の「村」が脱字のため修正する。13ページ以降の各図については、事務局で改めて整理する。

「委員」

○特認校は、生徒が思うように集まらないところがあって、その要因の一つに、地域性の問題があると思う。その辺りの指摘がなく、特認校制はかなり有効というような印象を受ける書き方になっている。10ページ、下から2行目「社会性育成機能」とあるが、これは「子どもの社会性を育成する機能」という書きの方が良い。22ページに「施設一体型が望ましい」とあるが、実際には費用の問題などがあって、施設分離型の方が導入数は多い。この辺りの書き方をどうするか。同ページ下から2段落目に「市全域で実践していくものと考えますが」という切り出しで、「市全域へ展開させていくことも考えられる」と締めくくっており、文章を見直した方が良い。

⇒（事務局）地域性で選ばれてしまうことについては、本文中に触れていますが、少し記述を整理する。10ページは、ご指摘のとおり修正する。22ページの「施設一体型」が好ましいような表現をしていますが、表現を見直す。その下段の「市全域で実践していくものと考えますが」という切り出しを見直す。

「委員」

○最後に「本市における小中一貫教育の導入について」という項目があるように、「小中一貫教育」の方に比重が置かれている印象を持った。どれが良いとか、どれが優れているとかではなく、この場で話し合った内容を伝える視点が欲しい。また、瀬戸市の事例を伝える趣旨は分かるが、バランス的に再検

討してほしい。さらに18ページに、統合が絡んでいるという記述があるが、具体的にいくつの学校が小中一貫校になったか明示した方が、知らない人が思い込みで読んでしまう恐れをなくすることができる。特認校についても、私たちは現場を見ているので、それを前提に読むことができるが、報告書を生かすためには、読み手側の視点を意識して見直すと良いと思う。

⇒（事務局）報告書のバランス的には、「小中一貫」と「学校選択制」の内容に比重がいつてしまう。また、瀬戸市の事例で特に強調したいのは、住民との合意形成のプロセスの部分であり、その内容が本市に重要と考え、報告書に盛り込んでいる。

「委員」

○小規模校を解消したいのは分かるが、豊川市として学校教育をどの方向に導きたいのか、方向性を絞った方が良い。「小中一貫」に傾いているようであるが、それでも良いと思う。ただし、将来を見据えて考えてほしい。例えば、英語は、東南アジア諸国でも上手に話すことができるが、日本人は英語が不得意という感じがする。世界に通用する子どもたちを育てていくために、どういう教育が必要か考える。このように、まず、教育全般についてあるべき姿を探って、それから決めていっても良い。子どもの人数だけに捉われていてはいけない。

⇒（事務局）将来の複式編制の回避に向けた取組について、教育委員会だけで決めていくものではない。この報告書は、地元の方との話し合いの中で方向性を決めていく際の参考としたいと考えている。

「委員」

○少子化により学校がなくなる、それを悪く捉えるのではなく、社会環境の変化に合わせてどう学校教育を変えていくか、何か新しいものをつくるか、そういう考え方が必要と思う。今もコロナの影響でいろいろなことが変わったように、新しく変わったことに対して、もっと良いものをつくろうというような考えをすれば良いと思う。

「会長」

○小規模校の課題解決の問題は、地元の方の同意をどう得ていくかということになり、懇談会としては、メニューは提示できるが、その方向性については議論できない。

今日の意見をまとめると、「バランスを取ってほしい」ということ。読んだ人が一つの方向性に流されることなく、「どういう条件があったからうまくいった」とか、「うまくいかなかった」とような事実を、読んだ人が理解できるように書き込んでほしいという意見。もう一つ「豊川市の教育の基本的な方針」ということについては、ここで議論できる話ではなく、また、別のところでの議論が必要と思う。

テーマは、学校規模の問題であるが、「小中一貫教育」については、9年間を見通して子どもたちをどのように育てていくか、子どもたちの実態に合わせて、どうよりよい教育を行うのかが、まず先にあるので、学校規模の問題として論ずることが難しい話になっている。ですから、提示できるメニューがあり、それぞれの問題点や条件によってどうなるのか、という事実を淡々と書くのが良いのではないか。具体的には、22ページの最後の5行の内容を膨らませ、Ⅲとして4つのメニューについて、具体的な事実を淡々と書きながら最後のまとめをすれば、収まる形になると思う。

「会長」

○事務局としては、意見を踏まえどのように対応するのか確認したい。

⇒（事務局）意見や修正点を会長に確認いただいた上で、報告書として承認が得られれば、他の委員へ書面で報告としたい。

⇒「会長」 修正案の確認は会長一任となるが、よろしいか。

⇒（異議なし）

⇒「会長」 認めていただいたということで、修正案については会長が確認する。その後、事務局から委員宛てに、報告書を送付されたい。

2 その他

教育長よりお礼
各種事務連絡

以上